

第1791号

2016年3月27日

日本共産党根室市議団

根室市宝林町4-203

TEL 23-6023

FAX 24-1684

3月定例会議会特集その3

今週の市議団ニュースでは、3月14日から16日にかけて行われた第2予算審査特別委員会での主な質疑の内容をご紹介します。

第2予算審査特別委員 になります。

鈴木議員は、クラークそのものを否定するものではないが、病院会計が厳しいときに、そこまでの費用をかける必要があるのかを問いました。病院側は、クラークの必要性を繰り返し、柔軟な運営についても検討する旨を答弁しました。

病院会計

鈴木議員は、新年度に向けて募集をかけ、合計で15名体制（現在8名）にしようとしている病院クラークについて取り上げました。

病院クラークとは、医師の負担軽減を図るためにカルテその他の書類作成、資料整理などを行うものです。

今回15名体制にすることによって、4千万円超の人件費がかかることに

ますが、引き続き全力で取り組みられます。

神議員は、病院の経営改善をすすめる上で、しっかりと分析を行う必要があると強調。「新改革プラン」や医療と介護

の連携など、様々な、新たな課題に取り組まなければならぬ状況で、現在の事務局体制に経営分析を求めるのは困難であることを指摘し、むしろ

第三者的な視点で経営分析を行うためにも、市長部局のなかで組織をつくらなければならないかと問いましたし、市長の保留を求めました。

長谷川市長は、経営分析の重要性を認識したうえで、外部委託も含めて検討していくと答えました。

水道会計

鈴木議員は、新年度から料金徴収業務等が民間に委託されることについて取り上げました。直接

市民に対応する業務なので、繊細かつ柔軟な対応が求められます。滞納処理業務では、機械的な対

応ではなく、市民に寄り添ったきめ細やかな対応が求められます。守秘義務の徹底も重要です。鈴木議員はこれらについて指摘し、しっかりと対応を求めました。

鈴木議員はまた、水道会計の見直しについても質疑。人口減少が続き水道料金の収入が減る一方、施設は老朽化して改修費用がかかります。収入減、支出増が続くため、2017年度には内部留保資金も底をつく見通しです。

鈴木議員は、たださえ高額な市の水道料金（2013年度現在全道35市中7位）であり、これ以上の市民負担を強いべきではないと強調しました。

高潮、ゲリラ豪雨などでたびたび水害に見舞われた緑町地区。新年度の下水道会計でも災害対策として排水設備等に関する予算措置がなされています。鈴木議員は、浸水対象地域の見直しなど、

今後の見通しを確認したうえで、臨時的に設置されるポンプなどについては、今後ポンプ場が改修される際に合わせて処理能力の向上のために活用してはどうかと提案。下水道側はその方向で検討していく旨を答弁しました。

下水道会計

また、2018年度の供用開始をめざしていたMICS事業（下水処理、し尿処理を同じ施設で行う事業）は、工期の遅れなどから2019年度にずれ込む可能性が明らかになりました。鈴木議員は、し尿処理施設の老朽化などから、計画通りの供用開始をめざすよう求めました。

下水道会計は、水道会計ほどではありませんが、厳しい状況であることは間違いありません。神議員は、安定した下水道会計を維持していく上で、水洗化の拡大が重要であると指摘。水洗化を進める施策の充実を求めました。下水道側も同様の認識でしっかりと進めていくと答弁しました。